化学史学会 2025～2026 年度役員選挙
「理事」立候補の言葉(14 名 50 音順)

（※立候補者にご執筆いただいた言葉をそのまま掲載したものです。掲載スペースを公平にする観点から、改行は一律に削除しました。）

2025 年 1 月 5 日　化学史学会選挙管理委員会

新井和孝　　正会員

日産化学（株）で研究および開発を長年勤めました。専門分野は NMR 利用の物理有機化学、キラル合成、酵素利用合成などで、医薬、農薬、機能性材料の新製品開拓を担当しました。現製品に続いている例は少ないが、新事業開拓の難しさと面白さを体験しました。本学会の化学史研修講演会の運営、日本化学会の化学遺産委員を現在担当。化学（科学）の面白さを広く伝える活動をもう少し続けたいと考えています。

遠藤瑞己　　正会員

私の専門は分析化学ですが，近年は教科書掲載事項の歴史的背景を探る化学史研究を行い，2024 年は論文 2 報発表，さらにそうした知見を日本基礎化学教育学会にて教育の現場に還元するプロジェクトを展開しています。今後は化学者化学史家として専門的化学史家，化学教員をはじめとした皆様とともに化学史の多様な可能性を追求し，魅力ある化学史コミュニティの未来に向けて学会運営に携わっていきたいと考えております。

楠 正夫　　正会員

維持会員会社である株式会社トクヤマ出身で、唯一の経営者・事務系の理事候補だと思っています。産業史をライフワークにし、化学の発展と産業の関係を注目しています。微力ではありますが、化学史学会の財政基盤の強化に助力しております。

工藤璃輝　　正会員

私は東京工業大学にて、故梶雅範教授、中島秀人名誉教授の下で科学史を学び、現在は神戸大学特命助教（学振 PD）をしております。研究テーマは、ニュートンの音楽研究と江戸時代日本におけるニュートン主義です。本会理事会においては、理事会の書記を務めている他、オンライン配信のサポートや、会誌過去号公開のための準備などに携わって参りました。若手の理事として、来期も本会に貢献させていただければと考えております。

河野俊哉　　正会員

専門は 18 世紀英国化学史、最近では図像科学史を通して宇田川榕菴の化学史・植物誌に取り組み、来年は国際会議で発表を予定しています。学会入会時より、理事・編集委員、研修会も第 1 回より委員を務めてきました。大学生・院生と 12 年に渡り自主ゼミ・実験教室・フィールドワークを行い研修会にも参加を促しています。『化学史への招待』の企画・監修・執筆。会員増加に努め、風通しの良い学会にしていきたいと考えております。

小林真実子　　学生会員

私は 2022 年 10 月に東京大学大学院科学史・科学哲学研究室の博士課程に入学し（6 年間の長期履修制度を活用）、戦前の帝国陸軍による化学兵器研究と化学者や学術界・産業界との関わりについて研究をしています。教育面では 2023 年 4 月より医療専門学校の臨床技術学科で医学史を中心とした科学史の授業を担当しております。化学史学会の理事として SNS による広報活動を進め、学会の発展に貢献できたらと思い、このたび立候補いたしました。

田中浩朗　　正会員

大学院生時代に入会し，もう 30 年以上になります。2017～22 年度の 6 年間事務局長を務めていました。2023～24 年度は事務局担当理事として会計・会員・HP 管理・イベントライブ中継などを担当しました。事務局の仕事を若い役員に完全に引き継ぐため，もう一期理事を務めさせて頂ければと思います。現在，東京電機大学で科学史を教えています。関心領域は科学技術制度史，特に科学技術動員体制史に興味を持っています。

平野恭平　　正会員

比較的小規模な学会ですので，若い会員の方にも理事として学会運営に参画していただき，学会の活性化を図ってもらいたいと思います。私は，もう若いとはいえませんし，同じ者が長く理事を務めることは学会の停滞を招く一因にもなりかねないと考えているのですが，推薦されたこともありますので，この 2 期目限りと考えて立候補しました。よろしくお願いいたします。

松岡雅忠　　正会員

東京都内の私立学校で 21 年間勤務した後，2020 年より福岡大学理学部化学科に着任しました。現在は，初年次教育と理科教員養成に携わっています。指導の際は，化学史と関連付けながら，化学者の驚きや喜び，その発見が社会へおよぼした影響，化学者のエピソードなどを紹介しています。化学史が専門ではありませんが，活動を通じて見聞を深め，学生の指導につなげたいと思います。

山口まり　　正会員

20 世紀後半の高分解能の顕微鏡および分子構造解析法の比較歴史研究を進めています。化学史学会では現在、事務局の負担軽減の取り組みを進めており、その一環で事務局の仕事のお手伝いをしています。引き続き微力を尽くしたいと思います。

山中千尋　　正会員

ご推薦に感謝します．私は政府系機関や複数の大学での実務経験に基づき，日本近代の学術研究体制について実証研究をしています．2023 年に補充で理事を拝命後，よりよい学会のあり方を積極的に提案してきました．虚心坦懐に学問を追究する場としての創立時の精神を継承しつつ，本会の特質である多様な会員同士の温かな交流を保つこと，そのための運営負担の軽減を図ることで，皆様とともに持続的な知の生産と普及を目指します．

吉本秀之　　正会員

ロバート・ボイルを中心とした科学革命期の科学思想史研究からスタートし、最近は画像科学技術文化史を研究しています。2024 年 3 月長く勤めていた東京外国語大学を定年退職しましたが、縁があり 10 月より同大学博士学生支援室で特定教員として働いています。エイジングの事実は否めないのですが、もうしばらくはずっとその任にあった編集委員として貢献できればと考えています。

渡部智博　　正会員

長く立教新座中高（立教高）で教鞭を執る。その間，埼玉大で博士（学術）を取得。本学会理事，NHK 高校講座講師，日本化学会普及交流委員会委員長等を歴任し，学習指導要領の編纂にも携わる。学校で化学史の話題を紹介する機会は多いもの。学会充実はもちろん，特に中等教育の現場と，他の関連学会や教育関係の諸団体との橋渡しをすることは大切な役割と認識している。微力ながら，本学会のお手伝いができればと考えている。

和田正法　　正会員

自薦いたしました。ご推薦もいただき、ありがとうございます。2011 年から本会の理事、会誌の編集委員を務めています。2023 年 4 月以降、事務局を預かっています。今後とも、円滑な運営を心がけて参ります。現在、三重大学全学共通教育センターに勤めています。工学教育史を研究しており、本会では、論文掲載（2012 年）をはじめ、『事典』の編集執筆、本会主催の国際シンポジウムで発表（2015 年、2023 年）をさせていただきました。

以上